

3. 目標・基本理念・基本方針

3-1 計画の目標

上位計画における将来の方向性や関連計画における公共交通に対する基本的な考え方、本町の公共交通における現状と課題を踏まえ、本計画における目標を以下のとおり設定します。

課題	目標
町外への日常的な移動の 利便性・快適性の向上	広島市街地・呉市街地方面への 通勤・通学等の利便性を高める
多様なライフスタイルに対応した 町内での生活利便性の向上	町内での買物や通院の利便性を高める
地域活性化に資する 外出・来訪機会の創出	まちの住みやすさ、観光のポテンシャルを引き出し、 外出機会を創出する
主要な移動ニーズに対応した 移動環境の確保	幹線となる公共交通の安心感を高める
高齢社会に対応したきめ細かな 移動環境の確保	町内の移動手段を身近で使いやすくする
それぞれの移動手段の良さを活かした 乗換環境の確保	多様な手段、目的を持った人が集まりやすくする
多様な関係者の連携による 公共交通の持続性の確保	多様な関係者が自分たち事として 持続的に関わりやすくする

3-2 基本理念・基本方針

本計画における目標の実現に向けた地域公共交通の基本理念と基本方針を以下のとおり設定します。

目指すまちの姿

ひと まち 育む 筆の都 熊野
～なんかい ちようどいい そう想えるまちを目指して～

基本理念

住むまち・住み続けるまちに選ばれる 魅力と価値を高める公共交通

基本方針

なんかい！生活がおくれる公共交通サービスの充実

目標

- 1 広島市街地・呉市街地方面への通勤・通学等の利便性を高める
- 2 町内での買物や通院の利便性を高める
- 3 まちの住みやすさ、観光のポテンシャルを引き出し、外出機会を創出する



ちようどいい！利用できる公共交通体系の構築

目標

- 4 幹線となる公共交通の安心感を高める
- 5 町内の移動手段を身近で使いやすくする
- 6 多様な手段、目的を持った人が集まりやすくする



やっぱりいい！公共交通を持続させる体制づくり

目標

- 7 多様な関係者が自分たち事として持続的に関わりやすくする



日常生活における周辺自治体との繋がりの強さを活かし、通勤・通学等で通いやすくするために、町外の鉄道や隣接市町を通る路線バスと連携して、本町を縦断するしっかりとした公共交通幹線軸をつくります。

また、町内にある買物施設や医療施設等を利用した生活利便性を向上させるために、おでかけ号やその他の公共交通を組み合わせるなど、日常生活にあった使い勝手の良い生活交通網を構築します。

交通結節エリア内の拠点等では、これらの公共交通幹線軸と生活交通網をつなげることに加え、自転車、自動車も活用することで、公共交通をさらに使いやすくします。

このような公共交通基盤を整えることに加え、いつもの移動でも、ちょっとした移動でも気軽に使える工夫や、住民が公共交通施策に積極的に関われる工夫をすることで、公共交通の利用機会を増やし、交通事業の経営強化を図ります。

さらに、まちの賑わいや外出機会を創出するために、交通事業者や地域の生活サービス事業者と住民、行政とが連携して、互いにとって価値のある取組を展開していきます。

このような好循環を生む公共交通の取組を、最新技術も活かしつつまちづくりと連動して進めることで、住むまち・住み続けるまちに選ばれるための魅力や価値を高める公共交通を築き上げます。

3-3 公共交通が果たす役割の将来像

まちづくりと連動しながら、**町内を縦断するしっかりとした公共交通幹線軸**と**きめ細かな生活交通網**を整え、それらを**交通拠点施設の整備**や**生活利便施設での乗換利便性の高めること**で、**町内での日常生活、町外への通勤・通学等の利便性向上**を目指します。

■公共交通幹線軸

- 商業・公共、医療等の施設が集積する都市機能誘導区域内の幹線道路において、本町から周辺市町への地域間の移動を担うバス路線について、**公共交通の軸としての機能の強化**を図ります。

■生活交通網

- 西部・中央・東部の各地域において、暮らしの中心となっているエリアに向けた移動と公共交通幹線軸と接続するための移動を担う移動手段について、**町内を移動する公共交通のきめ細かさの充実**を図ります。

■交通結節エリア

- まちの中心部では、**公共交通の乗換や日常生活、交流など多機能な交通拠点施設**を**交通結節エリア**内の役場周辺に整備するとともに、**生活利便施設**の特性を生かして**乗換機能の充実**を図ります。

